

熊本大学拠点形成研究（地下水資源の持続戦略的利用を実現する流域圏 ランドデザイン研究）シンポジウム

水と人が近づく方法とは？

—恵みの水と災いの水に付き合っていくために—

2017年 3月26日(日)

13時00分～17時00分（12時30分受付開始）

水前寺共済会館グレースア

（事前予約不要，入場無料）

お問い合わせ

濱 武英（熊本大学工学部社会環境工学科）

電話：096-342-3495

e-mail：hama@kumamoto-u.ac.jp

シンポジウム内容

1. 基調講演：「近い水」「遠い水」～自然と文化の共生が生み出す未来可能社会～
嘉田由紀子さん（びわこ成蹊スポーツ大学学長・前滋賀県知事）
小坂 育子さん（水と文化研究会事務局長・関西地元学ネットワーク主宰）
2. 市民活動報告
大住 和子さん（環境ネットワークくまもと理事）
3. 熊大拠点研究紹介
川越 保徳（熊本大学教授，拠点リーダー）
濱 武英（熊本大学准教授）
藤見 俊夫（熊本大学准教授）
4. パネルディスカッション
パネリスト：嘉田由紀子さん，大住 和子さん，徳野 貞雄さん（熊大名誉教授）
コーディネーター：牧野 厚史（熊本大学教授）



嘉田由紀子さん：1950年埼玉県生まれ。京都大学探検部時代のアフリカ調査から水と環境の大切さを痛感。ウイスコンシン大学大学院、京都大学大学院修了。農学博士。1980年代より水と人の関係性研究を琵琶湖、アフリカなどで進める。琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学教授を経て2006年から2014年まで滋賀県知事。琵琶湖の環境保全や子育て・子育て・女性支援、公共事業の見直しなどの新機軸の地域自治政策を進める。2014年からびわこ成蹊スポーツ大学学長。



小坂育子さん：1947年三重県生まれ。主婦、おばさん。高校時代に始めた蘚苔類調査から自然環境への認識を深める。生まれながらの田舎育ちなので「田舎性」が気に入って、結婚を機に滋賀県の比良山系の麓に越して来て35年になる。以来、多岐にわたっての水環境調査の面白さや目線の位置など嘉田さんからそのノウハウを学ぶ。主な著書として、里山に生きる古老の人生を記録した「聞き書き里山に生きる」、湧き水がある地で人とモノ、神が住む暮らしを綴った「台所を川は流れる」などがある。



大住和子さん：1948年長崎県生まれ。1980年代に新聞に載った「熊本市の水道水取水井戸から基準値を超える有機塩素系化合物検出」の文字に驚き、仲間と学習を重ね、広く知らせようと集会「地下水からの警告」を開催。予想を超える参加に、「報告 地下水からの警告」を実行委員会にて出版。これをきっかけに地下水保全の活動にのめり込む。現在は、江津湖を中心に、小学生と水質調査や生き物観察会を行っている。また、地下水を味わってもらうための野点カフェも同時開催し、江津湖とその環境の保全を語り合っている。さらに地下水の保全には上流域の農業の存在は欠かせないので、地下水をためるための冬水田んぼでの生き物観察や白川中流域での活動も行っている。